

平成20年度(第52回)  
岩手県教育研究発表会発表資料

国 語

# 小学校国語科における 読む力を高める学習指導に関する研究

- 説明的文章を確かに読む「スキルアップシート」の作成と活用をとおして -

平成 21 年 1 月 6 日  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生(1年)  
所属校 西和賀町立沢内第一小学校  
大 鷹 真

## 目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 内容と方法	1
2 授業実践の対象	1
研究結果の分析と考察	1
1 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本構想	1
(1) 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本的な考え	1
(2) 「スキルアップシート」を活用した学習活動を取り入れる意義	3
(3) 「スキルアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開	3
(4) 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本構想図	5
2 スキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた手だての試案の作成	6
(1) 手だての試案	6
(2) 検証計画	6
3 「スキルアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案に基づく 授業実践の結果	7
(1) 授業実践の概要	7
(2) 実践結果の分析と考察	17
4 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する研究のまとめ	19
(1) 成果	19
(2) 課題	20
研究のまとめと今後の課題	20
1 研究のまとめ	20
2 今後の課題	20

<おわりに>

【参考文献】

## 研究目的

中央教育審議会では、国語科における改善の方向性として、児童生徒の発達段階を踏まえた学習の系統性を重視し、具体的に身に付けるべき能力を明確にした指導が行われること、小学校においては日常生活に必要な国語の能力の基礎を確実に育成するようにすることが重視されている。「読むこと」では、論理的・説明的な文章において、的確に論理を読み取れようにすることが求められている。

しかし、教材から必要な情報を整理し内容を把握することができない、根拠をはっきりさせて説明することができない、自分の考えをもてないため話し合いが深まらないなどの姿が、日常の授業において見られた。この傾向はPISA調査で課題としてあげられている読解力の低下傾向と重なる。また、岩手県においては、平成18・19年度学習定着度状況調査の結果に見られる、小学校第3学年から中学校第2学年までの説明的文章を読むことの落ち込みにも関連する。これは、各学年で段階的に身に付けるべき基本的な読みの力が児童に十分定着しておらず、日常生活や他教科の学習に必要な国語の能力まで高められていないことが要因と考えられる。

このような状況を改善するには、文章を読み取るために必要なスキルを身に付け、身に付けたスキルを用いて説明的文章を読み取る学習を展開することが大切である。そのためには、読む能力をスキルとして明確化・系統化・具体化した「スキルアップシート」を作成し、指導過程に位置付けて活用する必要があると考える。

そこで本研究は、説明的文章を確かに読む「スキルアップシート」を授業で活用することをとおして、小学校国語科における読む力を高める学習指導の改善に役立てようとするものである。

## 研究仮説

小学校国語科において、説明的文章を読むために必要な能力をスキルとして明確化・系統化・具体化した「スキルアップシート」を、以下のような手順で活用すれば、読む力を高めることができるであろう。

- 1 授業の中で「スキルアップシート」に取り組ませ、スキルを身に付けさせる指導を行う。
- 2 学習したスキルを生かしながら、授業での文章の内容を読み取らせる指導を行う。

## 研究の内容と方法

### 1 内容と方法

- (1) 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本構想の立案（文献法）
- (2) 基本構想に基づく手だての試案の作成（文献法）
- (3) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践，テスト法，記録法）
- (4) 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する研究のまとめ

### 2 授業実践の対象

西和賀町立沢内第一小学校 第4学年 1学級（男子9名 女子9名 計18名）

## 研究結果の分析と考察

### 1 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本構想

- (1) 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本的な考え

## ア 小学校国語科における読む力とは

小学校国語科「読むこと」の学習では、「目的に応じ、内容の中心、要旨をとらえながら読む能力」の育成を目標としている。内容の中心や要旨をとらえるためには、まず、書かれている内容を的確に読み取ることが必要である。さらに、文章構成や語句の使い方、文末などの表現を手がかりに筆者の主張の軽重や表現の工夫について吟味できるようにすることも必要である。これらの力を育成することが、「読むこと」において求められているのである。

以上のことから、本研究における読む力を「内容を的確に読み取り、筆者の主張を理解するとともに、表現の工夫、効果などをとらえることができる力」とする。

「内容を的確に読み取り、筆者の主張を理解する」とは、書かれていることの順序や場面の様子などに気付いたり、目的に応じ、内容の中心や段落相互の関係、要旨をとらえたりできることである。このためには「内容をとらえる力」が必要である。「表現の工夫、効果などをとらえる」とは、文章構成や語句の使い方、文末などの表現を手がかりに筆者の主張の軽重や表現の工夫、効果について気付くことである。そのためには「表現の工夫をとらえる力」が必要である。これらの力を構成要素として【表1】に示す。

【表1】読む力の構成要素

構成要素	意 味		
	低学年	中学年	高学年
内容をとらえる力	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら内容の大体をとらえる力	目的に応じて、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら文章を正しく読む力	目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる力
表現の工夫をとらえる力	語句の使い方のよさをとらえる力	文章構成のよさをとらえる力	表現や文体に表れた意図や効果をとらえる力

## イ 小学校国語科における読む力を高める意義

目的に応じて「内容を的確に読み取り、筆者の主張を理解するとともに、表現の工夫、効果などをとらえることができる力」を高めることは、国語科の目標の一つである「国語を正確に理解する能力」つまり「言語の使い方を正確に理解する能力」と「言語で表現された内容や事柄を正確に理解する能力」の育成につながるものである。高められた力は、中学校における、書かれている文章について、根拠を明確にして自分の考えをまとめたり、知識や体験と関連付けて自分の考え方をもちたりする能力に結び付く。そして、高等学校における、読んだことを基にして考え、判断・評価し、それをまとめて論理的に表現する能力に高められるものである。このことは、現代社会において求められる論理的思考の礎となる力を育てることにつながると考える。

## ウ 説明的文章を用いて指導する意義

説明的文章とは、事実に基づき、ある事柄について読み手が納得できるように筋道を立てて解き明かす文章である。ある事柄について読み手が納得できるように説明するためには、いくつかの事実を基に、一つの「論理」で主張しなければならない。ここで言う「論理」とは、「前提 - 結論」「主張 - 根拠」「原因 - 結果」といった関係性のことである。つまり、説明的文章とはこの関係がはっきりしている文章なのである。説明的文章では、この論理性を高めるため、様々な工夫がなされている。適切な接続詞や指示語を用いながら、語と語、文と文、段落と段落相互の結び付き・つながりをよりはっきりさせていることもその中の一つである。ある事柄において事実と意見を区別

して書いていることや、主張は「初め」に述べるか「終わり」で述べるか、どのような書き出しにするか、「終わり」はどのような結びにするかなど文章構成や展開を工夫していくこともその一つである。

小学校で教材として取り上げられている説明的文章では、学年により取り上げる内容や文章構成の複雑さに違いはあるものの、筆者は自分の主張を伝えるために、簡潔な言葉を用いたり、大きなまとまりごとに述べたり、具体例を適切に用意したりしながら論理的に文章を組み立てている。低学年では順序に気を付け問いと答えの文章を見つけることで、中学年では要点をまとめ段落相互の関係を押さえることで、高学年では要旨をとらえ筆者の主張を理解することで、筆者が伝えたいことをとらえ内容を読み取ることができる。また、使われている語句が何を指しているのか、文章表現からどんな意図が汲み取れるのか、文章構成や展開がどのような効果を生み出しているのかなど、表現の工夫を吟味していくこともできる。その結果、説明的文章を読む学習を進めることで、内容をとらえる力とともに、表現の工夫をとらえる力も高められていくと考える。

## (2) 「スキルアップシート」を活用した学習活動を取り入れる意義

### ア 「スキルアップシート」とは

読む力を高めるための手だてとして、本研究では説明的文章を確かに読むスキルアップシートを活用した学習活動を取り入れる。スキルアップシートとは、各学年で必要とされる読む能力を明確化・系統化した指導事項を基に、スキルを具体化し実際の授業と結び付けて活用できるように作成した学習シートである。そこで、同シートには、内容をとらえるスキルを身に付ける、表現の工夫をとらえるスキルを身に付ける、身に付けたスキルを確認する、学習したスキルを振り返る、の四つの機能をもたせる。

### イ 「スキルアップシート」を活用した学習指導を取り入れる意義

文章を正しく読むスキルを身に付けるワークシート等はこれまでも数多く開発されているが、身に付けたスキルをその授業の学習に生かすことが、本研究におけるスキルアップシートの活用の特徴である。授業において教材文の読み取りと結び付けてスキルアップシートを活用することにより、児童は文章を読む際に、どのような点に気を付けて読めばよいか、そして、どのように読み取っていけばよいか、その方法を確認しながら教材を読み進めることができる。そして、身に付けたスキルを学習に生かすことで、より効率的にスキルの定着を図ることができるとともに、文章に沿って確かに読む力を伸ばすことができると考える。以上のことよりスキルアップシートを活用した学習指導を取り入れるということは、各学年において系統的に文章を確かに読むスキルを身に付け定着させることにつながり、読む力を高めるという点で意義があることである。スキルアップシートの指導事項は次頁【表2】に示すとおりである。

## (3) 「スキルアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開

### ア 授業の初めにスキルを身に付けさせる指導

学習課題確認後、授業の初めに5～10分程度の時間を使い、その時間の読み取りに必要と考えられるスキルについてスキルアップシートを使って学習する。使うシートは内容をとらえるスキルを身に付けるもの、または、表現の工夫をとらえるスキルを身に付けるものである。ここで使うスキルアップシートにはスキルの目標、スキルの説明、練習問題、を記述し、児童個々に取り組ませる。その後、学級全体でスキルの活用の仕方を確認し、文章を読み取るための視点や見通しをもたせる。同じ指導事項についてスキルアップシートの内容を変え、繰り返し扱うこともある。学習が進むに従って、スキルアップシートの活用を減らしていく。授

業で使うスキルアップシートの例を【資料1】に示す。

【資料1】授業で使うスキルアップシートの例

【表2】「スキルアップシート」指導事項の系統表

低学年	中学年	高学年
内容を とらえる		
順序をとらえる 時間の順序を表す言葉をとらえる 季節が分かる言葉 日にちが分かる言葉 時間が分かる言葉 事柄の順序を表す言葉をとらえる 様子をとらえる 大事な文をとらえる 問いかけの文 問いかけの答えの文 様子を書いている文 理由を書いている文	要点をとらえる 重要語句をとらえる 題名に関係する語句 繰り返し出てくる語句 中心文をとらえる 重要語句に着目 つなぎ言葉に着目 重要語句をつないでまとめる 段落相互の関係を とらえる 段落のつながりを とらえる 「初め,中,終わり」に分ける 「中(説明部分)」を大きくまとめる 段落の役割をとらえ文図をつくる	要旨をとらえる 文章の構成をとらえる 意味段落に分ける 段落の役割を考える 事実と感想,意見の文を読み分ける 文章を要約する 筆者の主張が述べられている段落をとらえる
表現の工夫をとらえる		
語句の使い方のよさを とらえる つなぎ言葉を とらえる 様子を表している語句をとらえる 言葉の使われ方のおもしろさを とらえる	文章構成のよさを とらえる 特別な表現の仕方をとらえる (呼びかけ,問いかけ) 提示の順序の工夫をとらえる (段落初めに中心文が位置) 対比して表現しているよさを とらえる	表現の意図や効果をとらえる 特別な表現の仕方をとらえる (断定) その事例を取り上げた意図を考える 引用して表現しているよさを とらえる 巧みな叙述のよさを とらえる

イ 学習したスキルを生かしながら、授業で文章の内容を読み取らせる指導

スキルの内容を確認した後は、そのスキルを活用して児童に教材の文章を読み取らせる。必要に応じてスキルアップシートを振り返らせ、できるだけ自分の力で文章を読み取らせていく。自分の力で読み取る活動の後には、学級全体でその内容についてまとめたり確認したりする。その際、読み取りの根拠をしっかりと述べさせるとともに、その根拠が文章の内容に沿ったものであるかを確認していくことで、どのように読むことが確かな読みにつながっていくかを把握させる。

ウ 第一教材での学習を生かして、第二教材の文章を読み取らせる指導

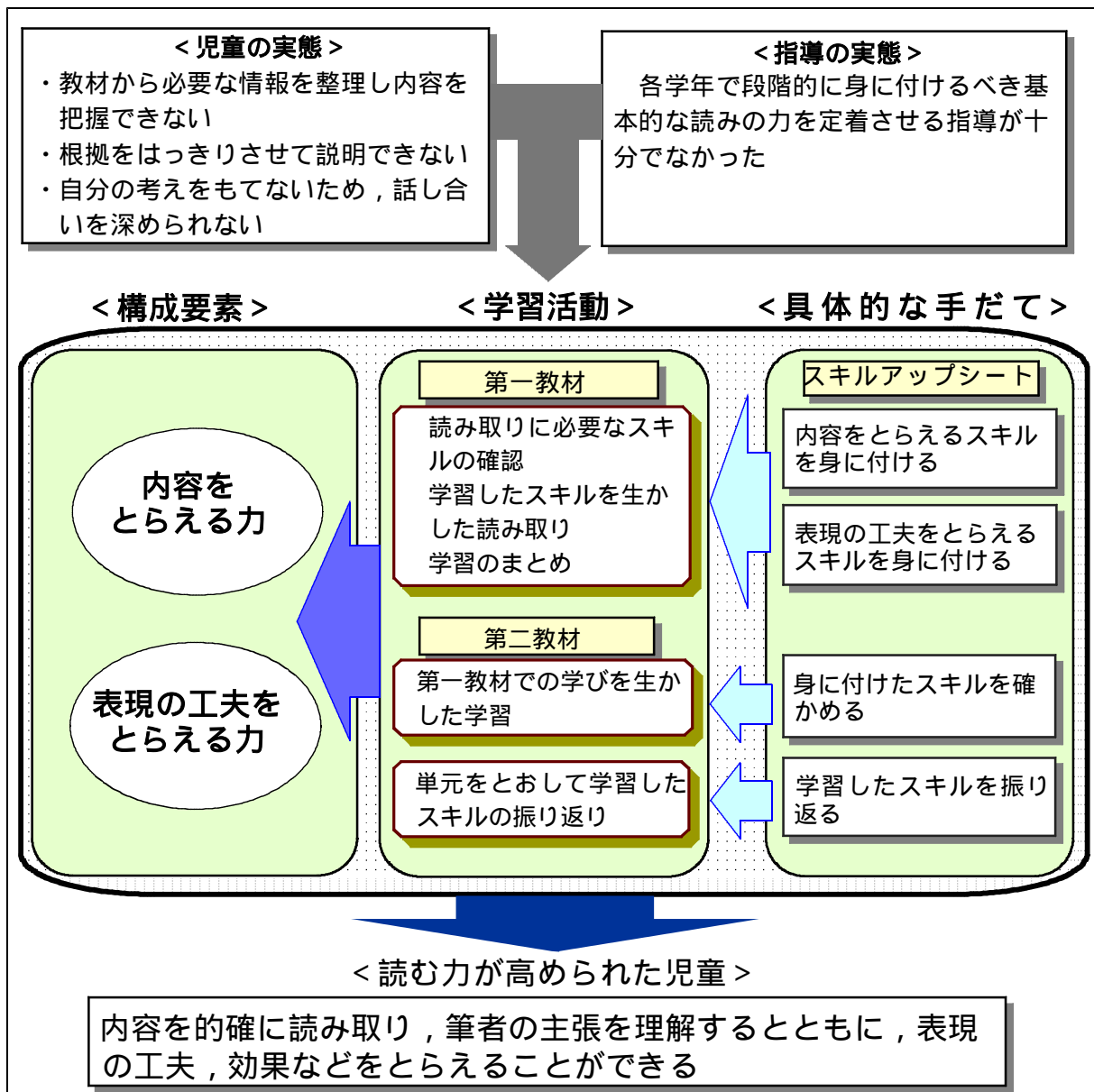
単元の終末段階では、第一教材で身に付けた読み取りのスキルを生かしながら、自分の力で第二教材を読み取らせる。第二教材は第一教材と類似した文章構成、または、内容で書かれた教材を扱う。一人で読み取れない児童には、これまでのスキルアップシートを振り返らせながら取り組ませる。第二教材の文章を読み取らせることで、自分が学習したスキルを振り返らせるとともに、どのような力が身に付いたか、今後、どのような力を身に付けていかなければならないかをとらえさせる。

エ 単元で学習したことを振り返らせる指導

単元の最後には、単元をとおして自分ができるようになったことや、気を付けて学習したこと、これからの課題にしたいことなどを振り返らせ、感想を書かせる。振り返りは、それまでのノートや取り組んだスキルアップシートの記述に目をとおさせながら行わせる。学習内容の積み重ねを感じ取らせながら、児童それぞれが、何が分かり何が分からないのかをとらえさせていく。

(4) 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことを基に、小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本構想図

## 2 スキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた手だての試案の作成

### (1) 手だての試案

これまで述べてきたことを基に，スキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた手だての試案を【図2】のように作成した。

指導 過程	教材	学習活動	指導の手だて	
			スキルアップシートの活用	指導上の留意点
導入		学習計画を立て，単元の見通しをもつ		
展開	第一教材（教科書教材）	<p>各学年の教材文を読み取る</p> <p>中学年の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>要点をとらえる</li> <li>段落相互の関係をとらえる</li> <li>文章構成のよさをとらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容をとらえるスキルを身に付ける</li> <li>表現の工夫をとらえるスキルを身に付ける</li> <li>指導事項に合ったスキルアップシートに取り組み，その時間の読み取りに必要なスキルを確認する</li> <li>必要に応じてスキルアップシートを見直し，内容を再確認して読み取りに生かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1枚のスキルアップシートには5～10分程度で取り組ませ，時間になったら取り組み途中の児童がいても全体でスキルの内容を確認する</li> <li>スキルアップシートは回収せずに児童の手元に置き，必要なときはスキルを再確認できるようにする</li> <li>使用するスキルアップシートは，1時間に1枚を基本とする</li> </ul>
終末	第二教材 <small>第一教材と類似した文章構成 または、内容で書かれた教材</small>	<p>第一教材での学びを生かして第二教材を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の力で第二教材を読み取る</li> </ul> <p>単元の学習をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返りながら感想を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けたスキルを確かめる</li> <li>教材文を読み取りながら，第一教材で身に付けた読み取りのスキルを確かめる</li> <li>学習したスキルを振り返る</li> <li>単元の学習を通して身に付けたことや，今後の課題にしたいことを振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で読み取れない児童には，これまでのシートを振り返らせながら取り組ませる</li> <li>感想は，説明的文章を読むために自分が気を付けたこと，できるようになったことは何かを観点にして書かせる</li> </ul>

【図2】スキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた手だての試案

### (2) 検証計画

授業実践の結果をもとに，手だての試案の有効性，仮説の妥当性について分析し，考察する。

【表3】は，検証内容と処理・解釈の方法を示したものである。【表4】は，読む力の構成要素である「内容をとらえる力」「表現の工夫をとらえる力」について検証するための設問を示したものである。【表5】は，児童のノートの記述内容から読む力の育成状況を判断するための基準を示したものである。



【表3】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
読む力の育成 状況	・内容をとらえる力 ・表現の工夫をとら える力	・テスト法により事前，事 後に実施する	・t検定を行い分析する
		・個々の読み取りをノート に記述させる	・スキルアップシートで 学習したスキルが読み 取りに生かされている か【表5】の基準に基 づいて分析，考察する

【表4】読む力の育成をとらえる設問

問題	設問内容		様式
「内容をとらえる力」の育成をと らえる問題	要点をとらえる	指示語が示す内容をとらえる	記述
		細部に気を付けて読み取る	記述
		内容を把握し適切な接続語を とらえる	選択
		大きくまとめて読み取る	選択 記述
		中心語句をとらえる	記述
「表現の工夫をとらえる力」の育 成をとらえる問題	文章構成のよさをとらえる	段落相互の関係をとらえる	選択 記述
		表現の仕方の工夫をとらえる	選択 記述

【表5】ノートの記述内容から判断するための基準

検証内容		A	B	C
内容を とらえる	要点をとらえる	重要語句や中心文を押さえ 要点を適切にまとめている	重要語句，中心文を押さえ ている	無記入，適切にまとめられ ていない
	段落相互の関 係をとらえる	意味段落に分け，段落の役 割など理由を説明している	意味段落に分けている	無記入，意味段落に分ける ことができない
表 現	文章構成のよ さをとらえる	工夫しているところを指摘 し，理由を説明している	工夫しているところを指摘し ている	無記入，工夫しているところ を指摘できない

## 3 「スキルアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案に基づく授業実践の結果

## (1) 授業実践の概要

## ア 授業実践の計画

(ア) 対象 西和賀町立沢内第一小学校 第4学年 1学級(男子9名 女子9名 計18名)

(イ) 授業実践期間 実践 平成20年7月4日～18日

実践 平成20年9月19日～10月4日

(ウ) 単元と教材名 実践 単元名 段落のつながりに気を付けて読もう(9時間)

教材名 「かむことの力」「体を守るしくみ」



実践 単元名 材料の選び方を考えよう(9時間)

教材名 「アップとルーズで伝える」「快適なくらしの工夫」

イ 授業実践 の概要

手だての試案に基づいて作成した指導計画に従い、授業実践を行った。【資料2】はスキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた授業実践の1時間分の概要である。

【資料2】スキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた授業実践の概要(2/9時)

本時の目標		重要語句や中心文に気を付けながら、よく「かむ」ことの大切さを読み取る事ができる		考察
段階	学習活動	教師の働きかけ	児童の様子	考察
導入	1 読み取りの方法を確認するためスキルアップシートに組み込む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルアップシートの取り組み方を説明</li> <li>・本時は指導目標を達成するために、2枚のスキルアップシートを使用</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">重要語句に着目して中心文をとらえるシート(1枚目に使用)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">重要語句をつないでまとめるシート(2枚目に使用)</div>  <p>7割程の児童が、重要語句として繰り返し出てくる言葉を見つけることができた。しかし、どの文にもその言葉が入っているため、大事な文がどれか判断することができず、中心文を指摘できたのは全体の3割程だった。答え合わせまでにかかった時間は約8分。</p> <p>ほとんどの児童が、重要語句を見つけることができた。しかし、書き出し方や言葉のつなげ方が分からず、なかなか文にできなかった。かかった時間は約7分。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">スキルアップシート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">スキルアップシート</div>	スキルアップシートの取り組みに予想以上の時間がかかった。1枚目のシートでは、中心文を見つけるまでの説明が多かったこと、そのため、文章全体の要点と結び付けて中心文を考えることができなかったこと、2枚目のシートでは解答しにくい設問だったことが、時間がかかった要因だったと考える。また、取り組む内容が多かったことによる集中力の低下も、要因の一つと考える。
	2 学習課題を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心文は大事な言葉が入っているだけでなく、内容をまとめている文であることを確認</li> <li>・書き出しを指示し、一つの文にすることを確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">各シートの答え合わせを行い、読み取りに生かしていくことを確認</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><b>学習課題 「かむ」ことについて読み取る</b></div>		
展開	3 1 2 段落の要点をまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要語句を確認し、中心文を見つける</li> <li>・重要語句や中心文をもとに要点をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1枚目のシートを1段落、2枚目のシートを2段落に生かしていくことを示唆し、それぞれの段落の大事な言葉、文を確認</li> </ul>  <p>段落の要点をまとめる際に、なかなか取りかかれぬ児童や教材文を長々と書き出す児童が多く、スキルアップシートの指導事項が読み取りに生かされていない様子が見られた。</p> <p>1段落は、問いかけの文を中心文としてまとめることができた。2段落は、大事な言葉を押さえたが、なかなかまとめられなかったため、全体でまとめた。</p>	スキルアップシートの指導事項が生かされなかったのは、課題を解決する視点をもつためシートに取り組んだという意識が薄かったからであると考えられる。また、指導事項が複数であった場合、うまく読み取りに結び付けられない児童が多いことが確認された。
	4 学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を交流させ、スキルアップシートの学習が読み取りに生かされたかを確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を交流させ、スキルアップシートの学習が読み取りに生かされたかを確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>まとめ</b></p> <p>1段落 かむとはどういうことか、よくかむとどんなよいことがあるのか</p> <p>2段落 食べ物をかむと脳に伝わり、脳からよくかみくだけるよう指令が出され、だえきとまじり飲みこみやすくなる</p> </div> <p>スキルアップシートを使うことで、重要語句や中心文の見つけ方が分かったと感想に書いた児童が多かった。しかし、実際の読み取りでは重要語句や中心文がどれかをとらえるのが難しく、うまく要点をまとめられなかったと感想に書いた児童もいた。</p>	

第7時までの学習で身に付けた読み取りのスキルを生かしながら、第8時では自分の力で第二教材を読み取らせた。その概要を【資料3】に示す。

【資料3】身に付けた読み取りのスキルを生かしながら第二教材に取り組ませる授業実践の概要（8/9時）

教材名 「体を守る仕組み」（光村図書 平成4年度版第4学年教科書）	
学習活動	学習の様子
1 学習課題とともに読み取りに必要なスキルを確認する	・段落の要点をまとめること、段落を大きなまとまりに分けることを確認した。その際に読み取りに必要なスキルを確認したが、挙手した児童が少なく、スキルアップシートで身に付けたスキルが、新たな教材に取り組む際も読み取りに生かせることを理解していない様子であった。そのため、学習したスキルアップシートを使い、スキルの内容を確認した。
2 教材文を読む	・教材文を範読した。時間は約6分間。
3 語句を確認する	・分からない語句は7語、約5分間で確認した。
4 自分の力で教材文を読み取る	・個々に読み取る時間は20分間を設定し、12段落中10段落をまとめさせた。しかし、ほとんどの児童が時間内に終わらず、時間を延長して取り組ませた。児童は、重要語句や中心文にサイドラインを引きながら要点のまとめに取り組んでいた。スキルアップシートを振り返りながら取り組む児童は2割程度であった。実際に読み取りにかかった時間は40分間であった。
5 全体で確認する	・各段落の要点とともに、重要語句、中心文を確認した。段落を大きくまとめる学習は、個々に取り組む時間がなかったため、全体で確認しながら行った。
<p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルアップシートで身に付けたスキルが、新たな教材に取り組む際も読み取りに生かせることを理解していなかった。自分がどんな力を身に付けてきたかを、児童が実感していなかったことが要因と考えられる。</li> <li>・児童の発達段階に応じた文章量と身に付けてきた読み取りの能力から検討すると、教材「体を守る仕組み」は、5～6時間かけて指導しなければならないものであった。そのため、この教材の内容を1時間で読み取るという本計画は無理があった。実際、個々の読み取りに40分間、全体での確認に40分間かかっている。第一教材で学習したスキルが生かされ、かつ、適切な文章量の教材が必要である。</li> </ul>	

ウ 実践 により明らかになった課題

実践 より、以下の課題が明らかになった。

(ア) スキルアップシートの文章の提示の仕方や設問の様式が、児童にとってにとらえにくいものであったため、取り組む時間が予想以上に長く、授業展開に影響が出た。時間を短縮できるようにスキルアップシートの内容の吟味が必要である。

- (イ) スキルアップシートで取り組んだ指導事項が、その時間の読み取りに十分生かされていない面がみられた。これは、スキル面の指導と内容把握の指導とが結び付いていなかったためと考えられる。1単位時間の中で、いつスキルアップシートに取り組ませるかを再考する必要がある。
- (ウ) 1単位時間に扱うスキルアップシートが複数であると、その時間の読み取りに必要な指導事項が焦点化されないため、うまく読み取りに結び付けることができず時間の延長につながる事が分かった。1単位時間の指導事項の焦点化が必要である。
- (I) 第二教材の文章量が多く、計画した時間内での読み取りができずに時間を超過しての指導になった。第一教材で身に付けたスキルと関連し、かつ、適切な文章量の第二教材が必要であった。
- (オ) 単元をとおして身に付けた読むスキルを、児童自身が実感していなかった。学習内容を確認するとともに、児童一人一人の学びを確認できる振り返り方の工夫が必要であると感じた。

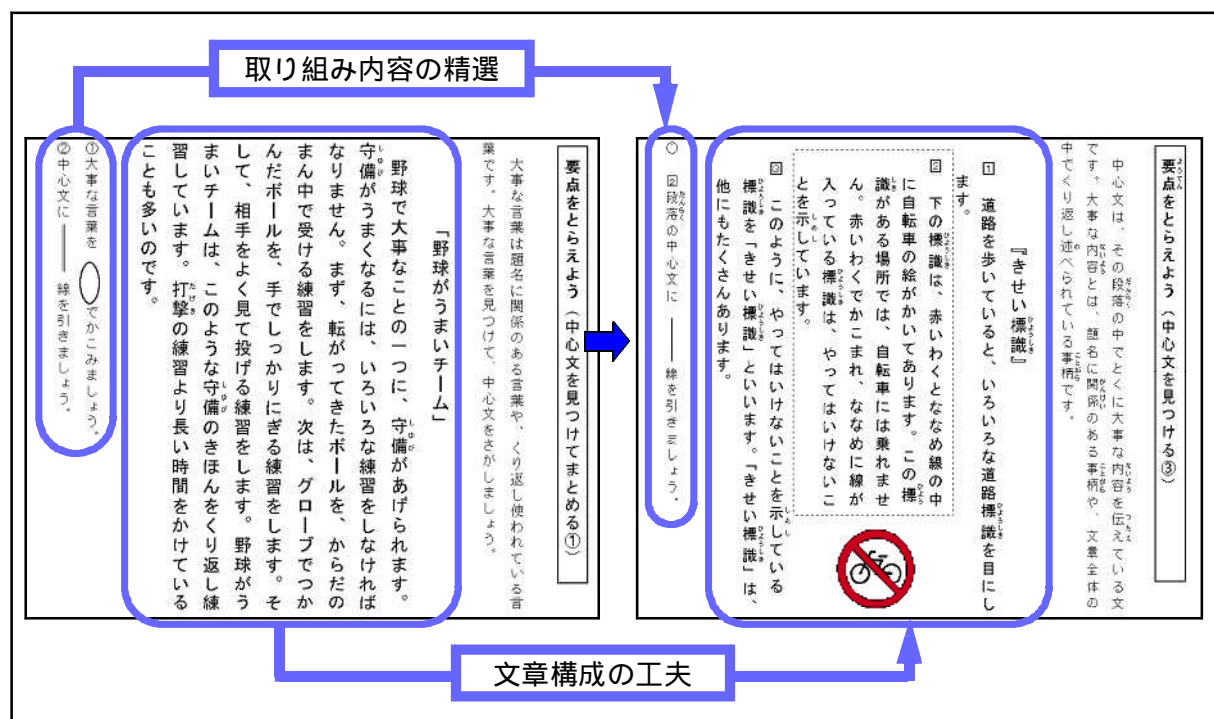
エ 改善を生かした手だて

実践 では、前述の課題に対し改善を加え、以下のように指導を進めることとした。

(ア) 時間短縮の工夫

主述や文章構成をはっきりさせた読みやすい文章にすること、取り組む内容を精選し設問も分かりやすくすることなど、児童が抵抗なく取り組めるように吟味してスキルアップシートを作成し、取り組み時間の短縮を図る。改善を図ったスキルアップシートの例を【資料4】に示す。

【資料4】改善を図ったスキルアップシートの例



(イ) スキルアップシートの指導事項を読み取りに結び付けるための工夫

実践 では、授業開始直後にスキルアップシートに取り組ませていたが、それがスキルアップシートでの指導事項と、教材の内容を読み取ることとの乖離につながっていた。スキルアップシートで身に付けたスキルと本時の指導内容を結び付けることができるように、学習課題を確認した後スキルアップシートに取り組ませる。改善を図った展開案を次頁【資料5】に示す。

【資料5】実践 「アップとルーズで伝える」展開案・第4時（一部）

	学習活動	指導上の留意点
つ か む	1 前時までの学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">アップとルーズのちがいを読み取ろう。</div>	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">指導事項を読み取りに結び付けるための位置付け</div> ・課題を学ぶためには各段落の要点をまとめることが必要なことを確認する。
	3 スキルアップシート（書き方の工夫）に取り組み課題解決のための視点を確認する。 4 アップとルーズの違いはどんなことが	・要点をまとめるため、その視点（今回は対比の表現）をつかむ手だてとしてシートに取り組むことを確認する。 ・一斉読みをさせる。

(り) 指導事項の焦点化

実践 では、本時の目標を達成するために、中心文をとらえるスキルアップシートと重要語句をつなげるスキルアップシートの2枚を1時間に使用した。そのため、教材文を読み取る時間を短縮せざるを得なくなった。そこで、実践 では、指導事項を精選し、1単位時間に1枚のスキルアップシートを使用するように計画を立てることとした。指導事項を焦点化した計画を【資料6】に示す。

【資料6】スキルアップシートの指導事項を焦点化した計画

実践 「かむことの力」の計画			実践 「アップとルーズで伝える」の計画				
時	主な学習活動	スキルアップシートの指導事項	時	主な学習活動	スキルアップシートの指導事項		
1	学習課題・計画設定		1	学習課題・計画設定	段落のつながり(初め・中・終わり)		
2	1～4の読み取り	要点(中心文・重要語句)	2	1～3の読み取り	要点(重要語句まとめる)		
3		要点(中心文・接続語)	4			4～6の読み取り	書き方の工夫(対比)
4		要点(重要語句まとめる)	5			7～8の読み取り	要点(中心文・重要語句)
5	5～8の読み取り		6	段落相互の関係	段落のつながり(文図)		
6	段落相互の関係を とらえる	段落のつながり(接続語) 段落のつながり(内容)	7	第二教材の読み取り	確かめ		
7	表現の工夫をとら える	書き方の工夫(呼びかけ) 書き方の工夫(文の配置)	8				
8	第二教材の読み取り	確かめ	9	単元の振り返り	振り返り		
9	単元の振り返り	振り返り					

(I) 第二教材の工夫

身に付けたスキルと関連し、2時間で指導できる文章量の適切な教材を教科書教材から見つけ

ることができなかった。そこで、【資料7】に示す、身に付けたスキルと関連し、かつ、指導時間に合った文章量のリライト教材を自作し第二教材として使用する。

【資料7】自作リライト教材（参考文献『くらしの中の和と洋』 東京書籍 4年下）

快適なくらしの工夫

① 私たちの住んでいる家には、たれがいてある和室と、板をはったカーペットをしいたりして床を仕上げている洋室とがあります。

② 和室、洋室には、それぞれどんな良さがあるのでしょうか。

③ まず、部屋ですわり方に目を向けましょう。

④ 私たちが和室ですわり方をするときは、たれの上に通帳すわります。きちんとした場では正座をし、くつろぐときにはひざをくずしたり、あくらはかいたりします。和室のたれの上では、いろいろをいせいですわることが出来ます。

⑤ これに対して、洋室ではいすにこしかけてすわります。いすには、敷用のいす、食事用のいす、くつろぐためのいすなどがあります。洋室では、それぞれのいすにすわることによって、目的に合わせたしせいをとることが出来ます。


⑥ 次に、部屋の使い方に目を向けましょう。

⑦ 和室は、一つの部屋をいろいろな目的に使うことが出来るという良さがあります。例えば、和室が一部屋あれば、そこでごはんをしいて話をし、ざくに料理を並べて食事をし、片付けてふとんをしくことが出来ます。これに対して、洋室は、目的に合わせて部屋が使いやすいつくられているという良さがあります。例えば、食事をする部屋にはいつもテーブルといすがあり、すぐに食事ができるようになっています。

⑧ このように見ると、和室と洋室には、それぞれが分かります。私たちは、その両方のを返りたいという人びとの願いが込められています。

2時間で指導できる文章量  
身に付けたスキルと関連した文章

- ・初め、中、終わりの段落構成
- ・対比構造



(オ) 振り返りの工夫

学習したスキルを振り返るスキルアップシートの様式を変更し、学習したスキルの内容の積み重ねを確認できるようにする。改善したスキルアップシートを【資料8】に示す。

【資料8】改善したスキルアップシート

**改善前のスキルアップシート**

単元終了時点での振り返りだけだったため、学びの積み重ねを実感しにくかった

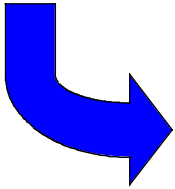
スキルについて説明されている部分には、その時間の授業終了後に配って貼らせるようにし、1時間1時間の積み重ねを感じ取らせるようにする

**改善後のスキルアップシート**

1時間1時間の学習を振り返りながら、自分ができるようになったこと、今後の課題にしたいことを書かせる


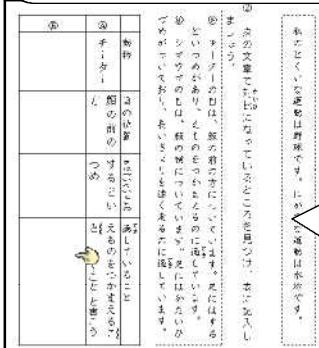


児童の言葉で学びの実感が確認できるようにする



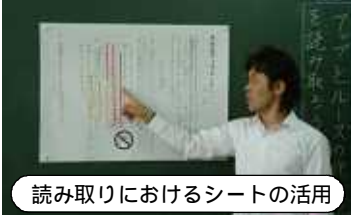
だいたいの内容をつかむ



エ 授業実践 の概要

改善を加えた手だての試案に従い、授業実践を行った。【資料9】【資料10】は、スキルアップシートを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要である。

本時の目標		対比の関係に着目して段落の中心となる語や文をとらえながら、アップとルーズの違いを読み取ることができる	
段階	学習活動	教師の働きかけ	児童の様子
導入	1 学習課題を確認する	<p><b>学習課題</b> アップとルーズのちがいについて読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真の提示の仕方、4段落5段落の構成の仕方から、アップとルーズの違いを比べるように表現されていることを確認し、その表現の仕方を「対比」ということを伝える</li> <li>本時は、指導目標を達成するために、表現の工夫をとらえるスキルアップシート（対比を使った書き方をとらえるシート）を使用</li> </ul>	
	2 スキルアップシートに取り組み読み取りの方法を確認する	 <p>設問に取り組んだ際、約1/3の児童がどこを対比として指摘していいか迷っていたので、全体で確認をした。設問にはほとんどの児童が戸惑いなく取り組み、問題文の対比箇所を見つけることができた。かかった時間は約6分。</p> <p>・対比のよさは何かを児童と話し合い、その対比で表現されているところを探して、アップとルーズの違いを読み取ることを確認</p>	
展開	3 4 5 6 段落の要点をまとめる	 <p>ほとんどの児童は、4段落と5段落で対比されているアップとルーズそれぞれの長所の違いについて見つけることができた。同じ段落の中で対比されているアップの短所、ルーズの短所を見つけた児童は約半数であったが、全体で確認しながら、同じ段落の中での対比も押さえることができた。</p>	 <p>アップとルーズの違いについて、確認したことを基に要点をまとめた。8割程の児童が板書を参考に自分の力でまとめることができた。要点を一文にまとめる際に、なかなか書けなかった児童もいたが重要語句をつなげてまとめることにより、まとめることができた。</p>
	・アップとルーズの違いを見つける	<p>シートを使いながら机間指導</p>	
終末	4 学習を振り返る	<p>・学習を振り返るスキルアップシートを使用</p> <p>対比に気を付けることで、違いを見つけることができた振り返る児童が多かった。また、シートでの学習の時は対比について分からなかったが、実際の授業をとおして分かるようになったと感想に書いていた児童もいた。</p>	<p>課題を解決するための視点と指導事項が結び付いていたため、児童は抵抗なくスキルアップシートに取り組むことができた。また、内容を精選し、書く作業を最小限に抑えたことで、予定した時間内で取り組むことができた。「違いがはっきり分かる」など、児童の発言から、対比表現のよさを理解していることを確認することができた。</p> <p>課題確認後にスキルアップシートに取り組ませた。指導事項を課題解決の視点として意識させることができ、対比して書かれている部分を見つける際の読み取りに、スキルが生かされた。同じ段落内の対比に気付く児童は少なかったが、スキルアップシートの設問と同じ構造であることを示唆することで理解させることができた。迷っている児童の机間指導においてもスキルアップシートが有効であった。</p>

本時の目標		段落の中心となる語や文をとらえながら、アップとルーズの使い分けを読み取ることができる	
段階	学習活動	教師の働きかけ	児童の様子
導入	1 学習課題を確認する	<p><b>学習課題</b> アップとルーズの使い方について読み取ろう。</p> <p>・本時は、指導目標を達成するために、内容をとらえるスキルアップシート（中心文を見つけるシート）を使用</p>	
	2 スキルアップシートに取り組み読み取りの方法を確認する	 <p>ほとんどの児童が中心文を指摘することができた。指摘した理由についても、題名や繰り返し使われる語句に加え、前後の段落との関係を述べるなど、より内容に目を向けたとらえ方ができるようになった。かかった時間は約6分。</p> <p>・重要語句や前後の段落の内容に目を向けながら中心文を見つけ、アップとルーズの使い方について読み取ることを確認</p>	<p>中心文を見つけるための設問を簡潔にしたこと、問題文の段落構成を工夫したことにより、内容に目を向けて中心文を見つけることができた。また、読み取りの根拠を述べることができた。取り組み方にも慣れ、全体で確認するまでの時間が短縮されている。</p>
展開	3 7・8段落の要点をまとめる	 <p>7段落の中心文を見つける際、前段落に述べられている内容に目を向けて考えている児童が3割程度いた。</p>  <p>全体で7段落の中心文がどれか話し合う際、意見が三つに分かれた。本時のスキルアップシートの内容を振り返り、前後の段落と結び付けて考えることを押さえたことで、中心文を決める根拠を確認することができた。</p> <p>読み取りにおけるシートの活用</p> <p>中心文を見つける話し合いに時間をかけたため、個々の要点のまとめに十分な時間をとることができず、要点は全体でまとめた。7段落は中心文を基に必要な内容を加えながら要点をまとめた。児童からは、中心文ではないがまとめに必要な語句や文について多くの意見が出た。8段落は文章全体で伝えたいことは何かを考えさせながらまとめた。文中の言葉が他の段落ではどのように使われているか、違う言葉にまとめるなどどのように言い換えられるかなどの意見が出た。</p>	<p>スキルアップシートで学習した内容が中心文を見つける際の根拠として述べられるなど、個々の読み取りで生かされていた。また、中心文がどれかを全体で確認する際に、スキルアップシートを活用し前後の段落との関係を押さえたことにより、中心文がどれかを明らかにすることができた。他の段落とのつながりに目を向けながら要点を考える力の育ちもとらえられた。</p>
	4 学習を振り返る	<p>・学習を振り返るスキルアップシートを使用</p> <p>感想では、要点をまとめるのが難しかったと振り返る児童が多かった。次回は自分の力でまとめたいという意欲をもつ児童も多く見られた。</p>	
終末			



第6時までの学習で身に付けた読み取りのスキルを生かしながら，第7・8時では自分の力で第二教材を読み取らせた。その概要を【資料11】に示す。

【資料 11】身に付けたスキルを確かめるスキルアップシートを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（7・8/9時）

教材名 「快適なくらしの工夫」（自作りライト教材）	
学習活動	学習の様子
1 学習課題とともに読み取りに必要なスキルを確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落の要点をまとめること，意味段落に分けること，表現の工夫をとらえることを確認した。読み取りに必要なスキルを確認した際は，スキルアップシートで学習した内容が述べられ，それらを第二教材の読み取りに生かしていくことを確認した。</li> <li>・教材文を範読した。時間は約4分間。</li> <li>・分からない語句を確認したが無かった。</li> <li>・読み取る時間は30分間とした。段落の要点をまとめる際は，ほとんどの児童が自分の力で取り組むことができた。また，文章中の重要語句や中心文にサイドラインを付けて確認しなくても，要点をまとめられる児童が多くいた。意味段落にまとめる際も自分の力で取り組む児童がほとんどだったが，表現の工夫を見つける際に，これまでのスキルアップシートを振り返りながら取り組む児童が数名見られた。予定した時間で大体の児童は読み取りを終えることができた。</li> </ul>
2 教材文を読む	
3 語句を確認する	
4 自分の力で教材文を読み取る	
5 全体で確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各段落の要点，意味段落の分け方，表現の工夫，それぞれの読み取り方の確認を行った。段落の要点では中心文や重要語句，意味段落の分け方ではまとまりごとの内容，表現の工夫では工夫されている箇所を確認することで，どのように読むことが正しい読みにつながるかを押さえるとともに，自分ができるようになったことやこれからの課題を明らかにすることができた。</li> </ul>
6 学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の感想には，友達の見聞き考えを深めることができた，「かむことの力」の学習よりも一人で読み取る力がついたという振り返りが見られた。</li> </ul>
<b>考察</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けたスキルと関連し，2時間で指導できる文章量の教材を用いたことで，第一教材で身に付けた力の確かめに無理なく取り組ませることができた。</li> <li>・第二教材に取り組ませることで，自分にどのようなスキルが身に付き，どのようなことを身に付けていかなければならないのかをとらえさせることができた。</li> <li>・児童は，スキルアップシートで身に付けたスキルが，新しい教材を読み取る際にも読み取りのスキルとして使えるということを理解していることが分かった。</li> </ul>	

第二教材で身に付けた力を確かめた後は，単元を通して自分ができるようになったことや，気を付けて学習したこと，これからの課題にしたいことなどを振り返らせ，感想を書かせた。

【資料12】は，実際に児童が記述したシートである。

【資料12】学習したスキルを振り返るスキルアップシートを用いた学習の振り返り（9/9時）

日	学習したこと	感想	先生
9/19	だんだん力がついてきた	今日の振り返りシートが役に立った	先生
9/17	段落のつながりを見つけた	最初は自分で要点をまとめられなかったけれど、だんだんまとめるようになった	先生
9/15	書き方のくふうを見つけた	要点の意味が分からなかったけれど、だんだん分かるようになってよかった	先生
9/13	中心文を見つけた	要点をまとめることが少しできるようになりました	先生
9/11	段落のつながりを見つけた	要点や段落のつながりを見つけられるようになりました	先生
9/9	この単元で身につけた力を活かしながら、説明文を読み取りました	「かむことの力」では、一人でまとめることができませんでした	先生

児童の「単元の振り返り」の記述より（n = 18）

- ・「アップとルーズで伝える」を勉強して「かむことの力」より要点や書き方の工夫とかいろいろなことが、前より早く書けたりできるようになりました。これからは、そのわけをすばやく答えられるようにしたいです。
- ・初め、中、終わりに分けられるようになったし、中心文を見つけられるようになった。（2人）
- ・最初は自分で要点をまとめられなかったけれど、だんだんまとめるようになった。（2人）
- ・要点をまとめられるようになったし、対比を見つけられるようになった。すらすらと要点を見つけられるようになりたい。（2人）
- ・要点のまとめを自分でできるようになった。初め、中、終わりを分けられるようになったのでよかった。
- ・自分で要点をまとめることができるようになった。段落のつながりが分からなかったけれどだんだん分かるようになった。要点を早くまとめられるようになりたい。
- ・段落を三つに分けてまとまりを見つけることができました。これからも段落のつながりの勉強があったら、このやり方を思い出してやりたいです。
- ・中心文や要点を自分で見つけられるようになってよかったです。分からないことがあってもスキルアップシートを見たり、みんなで話し合ったりして分かったのでよかったです。書き方の工夫を見つけられるようになりたいです。
- ・要点の意味が分からなかったけれど、だんだん分かるようになってよかったです。答えた後に、理由を話すことをがんばりたいです。
- ・要点をまとめることが少しできるようになりました。書き方の工夫を見つけるときに、スキルアップシートがとても役に立ちました。
- ・要点や段落のつながりを見つけられるようになりました。初めにスキルアップシートをやったので、勉強がやりやすくなってよかったです。
- ・自分で要点をまとめることができました。スキルアップシートが役に立ったので、まとめるのが少しかんたんでした。
- ・「かむことの力」では、一人でまとめることができませんでした。でも、今回は一人でまとめられるようになったのでうれしかったです。シートに要点のまとめ方などが書いていてよかった。
- ・文図をうまくかけるようになりました。段落をまとめるときに、中心文や大事な言葉を見つけてまとめていきたいです。
- ・まとまりを考えるのはむずかしかったです。

(2) 実践結果の分析と考察

読む力の育成状況を調べるため、授業実践の前後に同質問題でテストを行い、t検定によって比較した。

【表6】はその結果を示すものである。この結果から有意差が認められた。

ア 「内容をとらえる力」の育成状況

読む力の構成要素である「内容をとらえる力」の事前事後テストの平均正答率を【表7】に示す。平均正答率は大きく伸びている。

【表8】は内容をとらえる力を把握するための設問内容の正答率である。事後テストの結果、細部に気を付けて読み取る項目の平均正答率は下がっている。しかし、記述条件を満たしていなかったため正答とはならなかったものの、事前テストと比べると、細部に着目していた児童は増えていた。それ以外の項目の平均正答率は大きく伸びている。児童一人一人が、文章の要点や段落相互の関係を適切にとらえることができるようになってきたからであると考えられる。このことは、授業における児童のノートからもうかがえる。次頁に示す【図3】は児童のノートへの記述の分析結果である。実践の第3時（第一教材）における読み取りの記述状況と比べ、第7・8時（第二教材）ではA段階（7頁【表5】における基準）の児童が増え、C段階の児童が減少している。事後テストにおいて正答率が低かった児童においても、18頁【資料13】に示したように確認したスキルを読み取りに生かし、単元が進むにしたがって要点をとらえた記述ができるようになっていく。16頁【資料12】では、「要点を自分でまとめられた」「段落のつながりを見つけられた」など

【表6】読む力の育成状況

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
読む力	2.33	2.00	6.22	2.16	0.37	7.10	*

n = 18 (単位: %)

注 1 事前テストは7月4日、事後テストは10月14日に実施した。  
 2 設問は10点満点とした。  
 3 有意差の欄にある\*は、t検定において有意水準5%で有意差があることを示す。

【表7】「内容をとらえる力」事前事後テストの結果

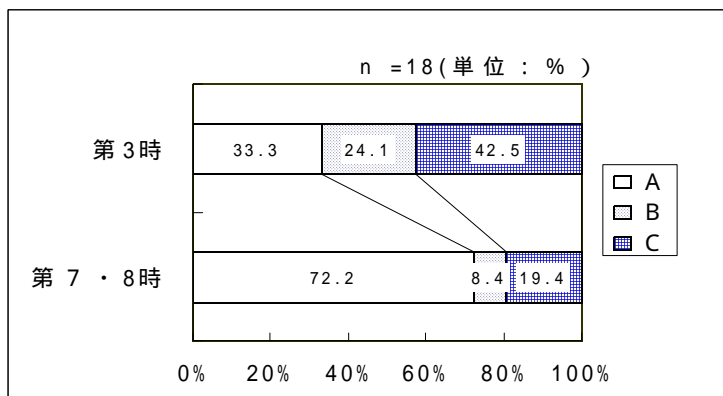
検証項目	平均正答率	
	事前	事後
内容をとらえる力	26.3	69.4

n=18 (単位: %)

【表8】「内容をとらえる力」事前事後テストの結果（設問別）

設問内容	平均正答率		
	事前	事後	
指示語が示す内容をとらえる	22.2	61.1	
細部に気を付けて読み取る	33.3	27.8	
内容を把握し適切な接続語をとらえる	選択	38.9	94.4
	記述	5.6	61.1
中心語句をとらえる	11.1	83.3	
段落相互の関係をとらえる	選択	50.0	88.9
	記述	16.7	66.7

n=18 (単位: %)



【図3】内容をとらえる力に関わる記述の判断結果

単元をとおして身に付けたことを実感した記述が見られた。

このような結果となった理由として、以下のことが考えられる。第一に、スキルアップシートを使いながら重要語句や中心文を見つけるための視点、段落のつながりを考える際に必要な視点を確認したこと、第二に、スキルを生かした読み取りの後に、学級全体で、個々の考え方の根拠やその根拠が文章の内容に沿っているかを確認したこと、第三に、第二教材に取り組むことで、内容をとらえるスキルを身に付けることができたかを確認したことである。このように学習を進めることで、児童はどのように読むことが確かな読みにつながるかを把握していったものと考えられる。

これらのことから、内容をとらえる力は、おおむね育成されたと考える。

【資料13】スキルを生かした読み取りの記述

段落	要点のまとめ(児童の記述)	分析結果	判定
第一教材「アップとルーズで伝える」			
	無記入	重要語句を押さえていたが、文章化できなかった。	C
	後半が始まると、きんちょうしている選手を大きく画面にうつしている。	重要語句(太字)を使いながらまとめている	A
	無記入	重要語句を押さえていたが、文章化できなかった。	C
	アップでとると細かい部分がよく分かるけれど、走っている選手以外のうつされていないところはよく分からない。	重要語句を押さえながら、対比関係が分かるようにまとめられている	A
	ルーズでとると、広いはんいの様子がよく分かるけれど、各選手の顔つきやし線までは、ルーズでは分からない。	重要語句を押さえながら、対比関係が分かるようにまとめられている	A
	アップとルーズには、伝えられることと伝えられないことがある	対比部分が述べられた中心文を基にまとめられている	A
第二教材「快適なくらしの工夫」			
	和室では、いろいろなしせいですわることができる。	中心文を基にまとめられている	A
	洋室は、目的に合わせ部屋が使いやすいつくられている。	中心文を基にまとめられている	A

イ 「表現の工夫をとらえる力」の育成状況

読む力の構成要素である「表現の工夫をとらえる力」の事前事後テストの結果を【表9】に示す。平均正答率が33.3%に伸びていることは成

【表9】「表現の工夫をとらえる力」事前事後テストの結果

n=18 (単位: %)			
	平均正答率	事前	事後
検証項目			
表現の工夫をとらえる力		11.1	33.3

果といえるが、正答率そのものはそれほど高いとはいえない。しかし、【資料14】に示すとおり、実践の第7・8時における読み取りでは18人中14人の児童が対比で書かれた表現や呼びかけの表現について指摘できており、表現の工夫をとらえる力の伸びを確認することができる。加えて、【表10】に示すとおり、無答率は事前テストの61.1%から事後テストの22.2%へと大きく減少している。これまで表現の工夫についてあまり意識されていなかった児童が、文章構成のよさや表現の仕方のよさを意識して教材文の読み取りに取り組んだ結果と考えられる。誤答ではあるが、事後テストの記述内容に、事例が詳しく書かれていることよさや表記のきまりのよさなど、文章の読みやすさに目を向けたことが書かれていることも、表現の工夫をとらえる力の伸びを確認できるものであると考える。

【表10】「表現の工夫をとらえる力」事前事後テストの無答率

n=18 (単位：%)			
検証項目	無答率	事前	事後
	表現の仕方の工夫をとらえる	選択	61.1
	記述	61.1	22.2

【資料14】表現の工夫をとらえた記述 (n = 18)

- ・呼びかけの文が使われている。(2)
  - ・ は大事な文が段落の最初に書いている。
  - ・和室と洋室をくらべて書いている。(2)
  - ・和室と洋室を対比させている。(3)
  - ・和室と洋室のよいところを対比しているところ。
  - ・ が対比になっている。
  - ・和室と洋室のことで対比になっている。
  - ・この説明文は と が対比になっている。
  - ・これでは、 や が対比になっていることが工夫されている。
  - ・ と は対比になっています。 と も対比になっています。
- は段落を示す

このような結果となった理由として、以下のことが考えられる。第一に、スキルアップシートを使いながらどのような書き表し方が表現の工夫としてとらえられるのか、工夫することによってどのようなよさがあるのかを確認したこと、第二に、確認した表現の工夫を教材文から見つけたり、要点をとらえる際の視点にして読み取りの学習に結び付けたりしたこと、第三に、第二教材に取り組むことで、表現の工夫をとらえるスキルを身に付けることができたかを確認したことである。このことから、児童は表現の工夫に目を向ける意識が高まっていったものと考えられる。

これらのことから、結果として大きな成果とはいえないが、表現の工夫をとらえる力は育成されつつあると考える。

#### 4 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおしてその有効性を考えてきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

##### (1) 成果

ア スキルアップシートを使いながら重要語句や中心文を見つけるための視点、段落のつながりを考える際に必要な視点を確認したことで、児童一人一人が、文章の要点や段落相互の関係を適切にとらえることができるようになった。

イ 自分の力で教材文を読み取った後、学級全体で個々の考え方の根拠やその根拠が文章の内容

に沿っているかを確認したことで、単元が進むにしたがい要点をとらえた記述ができるようになった。

ウ スキルアップシートを使いながら、どのような書き表し方が表現の工夫としてとらえられるのか、工夫することによってどのようなよさがあるのかを確認したことによって、これまで表現の工夫についてあまり意識していなかった児童が、表現の工夫を意識して教材文を読み取ることができるようになった。

エ 第二教材の文章を読み取ることで、自分が学習したスキルを振り返るとともに、どのような力が身に付いたか、今後、どのような力を身に付けていけばよいかをとらえることができるようになった。

## (2) 課題

表現の工夫をとらえる力は育成されつつあるが、まだまだ十分ではない。今後も教材文の読み取りと結び付けながら丁寧に指導していく必要がある。

以上のことから、課題はあるものの、スキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた手だての試案は有効であり、小学校国語科における読む力を高めることに効果があったと考える。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

この研究は、説明的文章を確かに読むスキルアップシートを授業で活用することをおして、小学校国語科における読む力を高める学習指導の改善に役立てようとするものであった。そのため、基本構想を立案し、手だての試案に基づき授業実践を行った。その結果、仮説の妥当性を確かめることができ、読む力を高める学習指導についてまとめることができた。なお、成果として得られたことは次のとおりである。

#### (1) 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する基本構想の立案

小学校国語科における読む力を高める指導に関する基本的な考え方や、スキルアップシートを用いた学習活動を取り入れる意義とスキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた学習指導の展開について明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

#### (2) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想を基に手だての試案を作成することができた。指導過程におけるスキルアップシートの活用について、指導上の留意点を示すことができた。

#### (3) 授業実践

手だての試案に基づいた授業実践により、スキルアップシートを用いた学習活動を取り入れた手だての試案が、児童の読む力を高める上で効果があることが分かった。

#### (4) 実践結果の分析と考察

授業実践の分析と考察により、読む力を高める二つの力の育成が認められ、手だての試案の妥当性を見ることができた。

#### (5) 小学校国語科における読む力を高める学習指導に関する研究のまとめ

小学校国語科における読む力を高める学習指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

## 2 今後の課題

本研究を今後より生かすためにスキルアップシートの内容の充実，授業以外での活用の仕方について考えていく必要がある。

<おわりに>

この研究を進めるに当たり，ご協力いただきました所属校の先生方，児童のみなさんに心からお礼を申し上げます。

### 【参考文献】

- 石田佐久馬(1991)，『段落・要点・要約』，東洋館出版社
- 市毛勝夫(1997)，『説明文教材の授業改革論』，明治図書出版
- 奥州市立胆沢第一小学校(2006)，『研究のまとめ』
- 風間章典・国語スキル研究会編(1990)，『文章読解の基本スキルワーク』，明治図書出版
- 渋谷孝(1999)，『説明文教材の新しい教え方』，明治図書出版
- 白石範孝(2006)，『要点・要約・要旨の基礎的学習で読解力を育てる』，学事出版
- 全国国語授業研究会(2005)，『読解力を高める』，東洋館出版社
- 成家巨宏(2006)，『読解力を高める説明的文章の指導』，東洋館出版社
- 日本言語技術教育学会東京神田支部(2002)，『論理的思考を育てる段落指導用(リライト)教材集成』，明治図書出版
- 藤田伸一(2007)，『論理的思考力を育てる説明文の指導』，学事出版
- 森田信義(1989)，『筆者の評価を工夫する説明的文章の指導』，明治図書出版